

本会・他学会水環境関連行事一覧

開催期日	行事	開催地	案内記事 掲載巻号
2025年			
11月	17日（月）～19日（水）	第40回ニューメンブレンシンポジウム2025	東京 本号
	20日（木）	海水資源・環境セミナー2025	千葉 本号
	27日（木）～28日（金）	日本膜学会「膜シンポジウム2025」	大阪 48巻10号
	28日（金）	令和7年度日本水環境学会中部支部研究発表会および講演会	福井 本号
	29日（土）	公開シンポジウム： 「水辺のすこやかさ指標」のグローバルな取り組みを目指して	東京 本号
12月	1日（月）	日本水環境学会 PFAS 処理技術研究委員会第1回セミナー 「陰イオン交換樹脂を用いた PFAS 処理の理論と実例」	東京, オンライン 本号
	12日（金）	第63回高分子と水に関する討論会	東京 48巻8号
	13日（土）	日本水環境学会関西支部 化学物質部会セミナー，総会，受賞者講演会	大阪 本号
	19日（金）	水・大気環境連携セミナー2025 ーデータで切り拓く環境研究の未来ー	東京 本号
2026年			
2月	5日（木）	第71回日本水環境学会セミナー 「ウォーターPPPが拓く上下水道の未来」	オンライン 本号
3月	9日（月）～11日（水）	第60回日本水環境学会年会	東京 本号
7月		WET2026 (Water and Environment Technology Conference 2026)	京都

会員システムからのご案内送付メールアドレスについて（ご案内）

2025年10月6日に学会ホームページ会員専用ページからログインできる会員システムが新規公開となりました。

本会員システムは【スマートコア】と称する汎用型の会員システムとなっております。

つきましては、本会員システムから会員の皆様へ種々のご案内をさせていただく時に使用するメールアドレスは「公益社団法人 日本水環境学会 <mail@smartcore.jp>」となっておりますのでご承知置きください。

なお、会員システムからのメール（mail@smartcore.jp）を確実に受信できるよう、迷惑メール設定の「受信許可設定」を変更するなど、各自で受信設定をお願いいたします。

また、本メールアドレス（mail@smartcore.jp）は自動送信用ですので、ご返信などはお受けできませんのであわせてご承知置きください。

● 本会関連行事 ●

第60回 日本水環境学会年会 研究発表申し込み案内

第60回日本水環境学会年会を、下記の通り開催いたします。多数のご発表をお待ちしております。なお、発表の採否は年会実行委員会にて決定いたしますので、あらかじめご了承ください。

1. 開催概要

内 容 一般研究発表（口頭発表・ポスター発表）
期 日 2026年3月9日（月）～11日（水）
会 場 中央大学 多摩キャンパス（対面開催のみ）
住 所 東京都八王子市東中野 742-1
交 通 多摩モノレール「中央大学・明星大学駅」直結
詳 細 <https://www.chuo-u.ac.jp/access/tama/>

2. 一般研究発表の募集

対 象 水環境に関する調査・研究成果（別表参照）
応募資格 本会会員に限る
登壇資格 正会員（個人・団体）、学生会員、国際連携会員
※申請中の場合は、会員システムにログインできないため、発表申し込みが行えません。
※学生会員は自動継続されません。2025年度の、再入会手続きを行ってください。
※1名が複数演題に登壇者として申し込むことはできません。

【申し込み方法】

発表申し込みは、本会の発表申し込みページからのみ受け付けます。

申込締切：2025年11月19日（水）23:59（※期限厳守）

会員番号は、新会員番号となります。

8桁（例：2025XXXX）です。

登壇者本人が会員ページにログインし、申し込みを行ってください。

研究内容は、最新の分類表にしたがって選択してください。

発表形式は「口頭」「ポスター」「どちらでも可」から選択可能です。

発表申し込み・講演要旨・当日の発表は、すべて同一言語（日本語または英語）で統一してください。

その他、申し込み方法の詳細につきましては、ホームページをご確認ください。

【発表形式・時間】

口頭発表：PowerPoint 使用、15分（発表10分＋質疑応答5分）

ポスター発表：指定時間内に現地掲示、討議時間あり

【講演集原稿の提出】

原稿は学会指定のテンプレートを使って作成してください。

対 象 口頭・ポスター発表ともに要旨原稿提出必須

枚 数 A4判1枚（図表含む）

提出方法 会員システムページより提出

ファイル形式 PDF（1～2MB 以内）

提出期限 2026年1月14日（水）23:59（期限厳守）

著 作 権 講演集掲載要旨の著作権は本会に帰属

【講演集の電子版配布】

講演集は電子ファイル（ダウンロード方式）で配布いたします。

公開予定日：年会開催の1週間前

冊子の購入方法につきましては、ホームページをご確認ください。

3. 参加申し込み

年会の参加申し込み案内は、学会誌12月号およびホームページに掲載予定です。登壇者は必ず参加申し込みを行ってください。

【問い合わせ先】

（公社）日本水環境学会 第60回年会係

Tel：03-3632-5351 E-mail：nenkai@jswe.or.jp

「年会優秀発表賞（クリタ賞）」候補者の募集

第60回日本水環境学会年会では、博士前期課程（修士課程）の大学院生を対象とした「年会優秀発表賞（クリタ賞）」の受賞候補者を募集します。多数のご応募をお待ちしております。この賞は、「公益財団法人 クリタ水・環境科学振興財団」殿のご出捐（ご寄付）により実施するものです。

なお、開催方法によっては審査および表彰の方法が変更となる場合があります。

■対象：博士前期課程（修士課程）の学生会員による口頭発表

■応募方法・スケジュール：学会ホームページをご確認ください

■備考：受賞者は、毎年5月に募集される国際会議発表助成の候補対象となります

問い合わせ先

（公社）日本水環境学会 年会優秀発表賞（クリタ賞）係

Tel：03-3632-5351 E-mail：nenkai@jswe.or.jp

「年会学生ポスター発表賞（ライオン賞）」 候補者の募集

第60回日本水環境学会年会において、学部生、高等専門学校生（高専生）、短大生を対象とした年会学生ポスター発表賞の受賞候補者を募集します。多数の方々の応募をお待ちしております。この賞は、「ライオン株式会社」殿のご出捐（ご寄付）により実施するものです。

開催方法によっては審査方法、表彰方法に変更がある可能性があります。

■対象：学部生、高専生、短大生によるポスター発表

■応募方法・スケジュール：学会ホームページをご確認ください

別表 日本水環境学会年会 研究発表分類表

分類／Classification		キーワード例	Examples of Keywords
1	流域、河川、湖沼 Watershed, river, and lake	懸濁物質、有機物、栄養塩類、無機イオン、重金属、農薬、汚濁負荷、ポイント・ノンポイントソース、富栄養化、貧栄養化、自然浄化、底質、赤潮、藻類、プランクトン、魚類、生育場、気候変動、生態系サービス、モデル予測、環境基準など	suspended solid, organic matter, nutrient, inorganic ion, heavy metal, agrochemical, pollution loading, point/non-point source, eutrophication, oligotrophication, natural attenuation, sediment, red tide, algae, plankton, fish, habitat, climate change, ecosystem services, model prediction, environmental quality standards, etc.
2	海域、沿岸 Sea and coast		
3	土壌、地下水 Soil and groundwater	湧水、有機物、栄養塩類、無機イオン、重金属、農薬、浄化機構、気候変動、モデル予測、環境基準など	spring water, organic matter, nutrient, inorganic ion, heavy metal, agrochemical, remediation mechanism, climate change, model prediction, environmental quality standards, etc.
4	水圏生態系 Aquatic ecosystem	植物プランクトン、動物プランクトン、水生植物、魚類、ベントス、藻類、赤潮、富栄養化、貧栄養化、自然浄化、生育場、気候変動、生態系サービス、モデル予測など	phytoplankton, zooplankton, aquatic plant, fish, benthos, algae, red tide, eutrophication, oligotrophication, natural attenuation, climate change, habitat, ecosystem services, model prediction, etc.
5	上水処理 Drinking water treatment	水源、有機物、臭気物質、微量化学物質、健康関連微生物、凝集沈殿、ろ過、膜、吸着、消毒、海水淡水化、リスク評価など	water source, organic matter, odorous compound, micropollutant, health-related microorganisms, coagulation sedimentation, filtration, membrane, adsorption, disinfection, seawater desalination, risk assessment, etc.
6	排水処理（生物学的） Wastewater treatment (biological)	活性汚泥法、オキシデーションディッチ法、嫌気性処理、生物膜法、生物活性炭、嫌気性消化、生物処理モデルなど	activated sludge process, oxidation ditch process, anaerobic treatment, biofilm process, biological activated carbon, anaerobic digestion, biological treatment model, etc.
7	排水処理（物理化学的） Wastewater treatment (physicochemical)	凝集沈殿、ろ過、膜、吸着、塩素、オゾン、紫外線、電気処理、促進酸化処理、人工湿地、物理化学的処理モデルなど	coagulation sedimentation, filtration, membrane, adsorption, chlorine, ozone, UV, electrolytic treatment, advanced oxidation process, constructed wetland, physicochemical treatment model, etc.
8	汚泥・廃棄物処理 Sludge and waste treatment	嫌気性消化、メタン発酵、減容化処理、バイオマスエネルギー変換、下水汚泥、畜産廃棄物、コンポストなど	anaerobic digestion, methane fermentation, volume reduction, biomass energy conversion, sewage sludge, livestock waste, compost, etc.
9	資源回収、気候変動対策 Resource recovery and climate countermeasures	窒素・リン、希少金属、省エネ、熱回収、メタン発酵、水素発酵、微生物燃料電池、産業排水など	nitrogen phosphorus, rare metal, energy conservation, thermal recycle, methane fermentation, hydrogen fermentation, microbial fuel cell, industrial waste water, etc.
10	マイクロプラスチック、PFAS、微量化学物質 Microplastic, PFAS, and micropollutant	プラスチック、有機フッ素化合物、無機イオン、農薬、環境動態、リスク評価、モデル予測など	plastic, PFAS, inorganic ion, agrochemical, environmental dynamics, risk assessment, model prediction, etc.
11	毒性評価、健康影響評価、環境分析技術 Toxicity and health effect assessment, and environmental analysis technique	健康関連微生物、細胞毒性、変異原性、生物濃縮、指標生物、生態系影響、内分泌攪乱作用、リスク評価、化学分析、バイオアッセイ、機器分析など	health-related microorganisms, cytotoxicity, mutagenicity, bioaccumulation, index organism, ecosystem impact, endocrine-disrupting effect, risk assessment, chemical analysis, bioassay, instrumental analysis, etc.
12	環境文化、環境教育、国際協力 Environmental culture and education, and international cooperation	自然再生、環境保全活動、環境学習、地域参加、文化交流など	regeneration of nature, environment conservation activity, environmental learning, community involvement, cultural exchange, etc.

ください。

問い合わせ先

（公社）日本水環境学会

年会学生ポスター発表賞（ライオン賞）係

Tel：03-3632-5351 E-mail：nenkai@jswe.or.jp

海外在住外国人会員の年会発表に対する 費用助成制度「国際招聘賞」

JSWE-IDEA Water Environment International Exchange Award

第60回 日本水環境学会年会の助成対象者の募集

本会では、水環境分野の国際交流・国際協力の促進を目的として、本会年会で研究発表を行う海外に在住する外国籍の個人会員・国際連携会員に対して、来日費用等

の助成を行っています。

2026年3月に中央大学多摩キャンパス（東京都）で開催される第60回年会での研究発表予定者から、助成の対象者を下記のとおり募集します。奮ってご応募ください。

この助成制度は「いであ株式会社」殿のご出捐（ご寄付）により実施するものです。

応募方法等の詳細につきましては、WEBページにてご確認ください。

問い合わせ先

Committee on Overseas Member Invitation Program
Japan Society on Water Environment

E-mail：kokusai@jswe.or.jp（@は半角）

水・大気環境連携セミナー 2025 ーデータで切り拓く環境研究の未来ー

水・大気環境の両分野に関わる研究機関間の連携促進を図ると共に、地域環境研究の今後のあり方に関する議論を深める場として、水環境・大気環境両学会の連携セミナーを開催いたします。今回のセミナーでは「データ」をキーワードとして、伝統的なモニタリングデータの活用、新たな測定手法による解析、新たな予測手法の適用などについてご講演いただきます。さらに、環境データを通じた地環研等における研究連携の展望などを通じて、データサイエンス時代における環境研究の未来について考えていきます。

主 催 日本水環境学会、大気環境学会

共 催 全国環境研協議会、東京都環境科学研究所、
埼玉県環境科学国際センター

後 援 環境省（予定）

期 日 2025 年 12 月 19 日（金）13:00～16:30

方 法 ハイブリッド形式（対面会場＋オンライン）

場 所 自動車会館（東京都千代田区九段南 4-8-13、
市ヶ谷駅から徒歩 2 分）

プログラム

〈開会挨拶〉 中井里史（横浜国立大学）

〈特別講演〉

環境監視・調査におけるデータの「 」について
吉本隆寿（環境省）

〈講演〉

国環研と地環研とのⅡ型共同研究のこれまでとこれから
菅田誠治（国立環境研究所）

リン酸パッシブサンプラーの開発と湖沼底泥からのリン
溶出速度の推定 羽深 昭（北海道大学）

ローコストセンサーを用いた大気環境計測の基礎と応用
中山智喜（長崎大学）

下水情報の徹底活用による“街のヘルスケア”を実現
する次世代環境モニタリング技術

佐野大輔（東北大学）

機械学習と環境データを用いた大気質予測：手法と適
用事例 荒木 真（大阪大学）

社会経済シナリオの統計的ダウンスケールと災害リス
ク評価への応用 村上大輔（統計数理研究所）

〈総合討論〉 今村隆史（東京都環境科学研究所）

〈開会挨拶〉 今井章雄（埼玉県環境科学センター）

定 員 現地 100 名程度、オンライン最大 500 名程度

参加費 無料

申込方法 〈<https://jswe-local.org/seminar.html>〉 から
オンライン申し込み

問い合わせ先

国立環境研究所 小野寺 崇 Tel：029-850-2494
埼玉県環境科学国際センター

米持真一 Tel：0480-73-8369

E-mail：seminar@jswe-local.org

第71回 日本水環境学会セミナー 「ウォーター PPP が拓く上下水道の未来」

日本の上下水道事業は、施設の老朽化、人口減少にと
もなう料金収入の減少、技術者の高齢化と人材不足とい
った複合的な課題に直面しています。これらの課題を解
決し、将来にわたり持続可能で質の高い上下水道サービ
スを維持していくためには、官民連携（PPP：Public-
Private Partnership）の推進が重要な選択肢の一つとな
ります。

本セミナーでは、この重要なテーマに焦点を当て、行
政、学術界、民間企業の各分野を代表する専門家をお招
きし、ウォーター PPP に関する国の政策動向、最新の取
り組み、そして今後の展望についてご講演いただきます。
本セミナーが、持続可能な上下水道事業の実現に向けた
具体的な議論の一助となることを願っています。

主 催 日本水環境学会

後 援 全国環境研協議会（予定）

開催日時 2026 年 2 月 5 日（木）13:00～16:50

開催方法 Zoom ウェビナー

参 加 費 会員（個人・団体とも）3,000 円、非会員 5,000
円（税込）、学生会員・大学生以下無料

申込方法ほか詳細は、次号以降学会誌および HP にて
ご案内予定。

プログラム（予定）

13:00～13:10 開会あいさつ

13:10～13:40 内閣府民間資金等活用事業推進室
（PPP/PFI 推進室）企画官 山口 陽

13:40～14:10 国土交通省上下水道審議官グループ
大臣官房参事官（上下水道技術）付
調整官 水橋正典

14:10～14:40 総務省自治財政局準公営企業室
課長補佐 山田翔平

14:40～15:00 休憩

15:00～15:50 近畿大学 教授 浦上拓也

15:50～16:40 株式会社日水コン インフラマネジメ
ント本部インキュベーション事業部
野田幸輝

16:40～16:50 閉会あいさつ

問い合わせ先

（公社）日本水環境学会 セミナー係

Tel：03-3632-5351 E-mail：seminar_info@jswe.or.jp

令和7年度 日本水環境学会中部支部研究発表会 および講演会の開催について

日本水環境学会中部支部では支部会員および関連団体
の技術研鑽と情報交換を目的に令和7年度日本水環境学

会中部支部研究発表会および講演会を下記のとおり開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

主 催 日本水環境学会中部支部

期 日 2025 年 11 月 28 日 (金) 12:30～16:30

場 所 福井県国際交流会館
(福井県福井市宝永 3 丁目 1-1)

プログラム

12:30～ 研究発表会

14:30～ 講演会「自然の機能を活用した環境負荷低減
－埋立地浸出水、PFAS 等への適用に向けて－」
国立研究開発法人国立環境研究所 尾形有香氏

16:00～ 研究発表会表彰式

参加申し込み方法

申込書等はメールで以下へご請求ください。

参加申込締切

参加申込：9 月 24 日 (水) ～11 月 7 日 (金)

参加費 無料 (ただし、事前申込みが必要です。)

問い合わせ先

日本水環境学会中部支部事務局
(福井県衛生環境研究センター)
〒910-8551 福井県福井市原目町 39-4
Tel：0776-54-5648 Fax：0776-54-6739
E-mail：zenkanken-f@pref.fukui.lg.jp

公開シンポジウム：「水辺のすこやかさ指標」の グローバルな取り組みを目指して

主 催 日本水環境学会東北支部水辺のすこやかさ指標研究会・関東支部

共 催 公益財団法人 水・地域イノベーション財団

期 日 2025 年 11 月 29 日 (土) 13:00～17:00

場 所 TKP 東京駅カンファレンスセンター・カンファレンスルーム 10B

開催形式 対面とオンラインのハイブリッド形式
参加お申し込みの方に後ほどオンライン
(Zoom) の接続先をメールでお知らせします。

プログラム

【開会挨拶】

日本水環境学会東北支部水辺の健やかさ指標研究会
代表 矢野 篤男

【基調講演】13:05～13:55

『英語版 “Water Environment Soundness Index (MIZU-SHIRUBE)” の活用に向けて』

中央大学 古米 弘明

『みずしるべの普及に向けた環境省における検討状況』
環境省 鍛冶 尚寛

【話題提供】13:55～15:50

『ボリビアにおける水辺のすこやかさ指標の適用の可能性』
東北大学・JICA 根立 隆志
『インドにおける水辺のすこやかさ指標の活用事例』

(株) 日水コン 前田 千夏
水・地域イノベーション財団 清水 康生
『ベトナムにおける水辺のすこやかさ指標の適用の可能性』
元北九州市水道局 原口 公子

～ 休憩 (15 分) ～

『横浜市における取組について』

横浜市 田中 康平

『水辺のすこやかさ指標の課題と展望について』

山梨県立大学 風間 ふたば

■《総合討論》15:50～16:50

司 会 中央大学 古米 弘明

閉会挨拶 16:50～17:00

日本水環境学会関東支部長 中央大学 西川 可穂子

参 加 どなたでも参加は自由です

参加費 無料

交流会 シンポジウム終了後に開催を予定しています

詳細 URL <https://jswetohoku.jp/>

参加申し込み・問い合わせ先

東北工業大学都市マネジメント学科 矢野篤男
E-mail：yano-t@tohtech.ac.jp Tel：022-305-3961

日本水環境学会関西支部 化学物質部会セミナー，総会，受賞者講演会

日本水環境学会関西支部では、化学物質部会セミナー、総会、講演会を下記の要領で開催いたします。

化学物質部会セミナーでは、「ネイチャーポジティブに貢献する TNFD 対応とは？化学物質管理の新たな可能性」をテーマに講演を行います。また、受賞者講演会では、関西支部の水環境賞、奨励賞を受賞された方の講演を行います。多くの方々のご参加をお待ちしています。

主 催 日本水環境学会関西支部

期 日 2025 年 12 月 13 日 (土) 10:00～16:00

場 所 ドーンセンター 5 階 セミナー室 2 (天満橋)

プログラム (予定)

午前の部 化学物質部会セミナー

9:45 受付開始 (入室開始)

10:00～12:00 化学物質部会セミナー

『ネイチャーポジティブに貢献する TNFD 対応とは？化学物質管理の新たな可能性』：化学物質汚染は生物多様性損失の要因としても捉えることができます。本セミナーでは、ネイチャーポジティブの視点から化学物質管理を再構築し、TNFD 対応にどう活かせるかを考察します。(講師：農研機構 永井孝志氏、産総研 内藤航氏、いであ (株) 早坂裕幸氏)

午後の部 総会・講演会

13:45 受付開始 (入室開始)

14:00～14:30 総会

14:30～16:00 令和 7 年度表彰式および受賞者講演

定 員 50 名 (先着順)

参加費 セミナー・総会・受賞者講演会：無料
申込方法 関西支部ホームページ内の申し込みフォームにて受付。(新着情報をご参照ください)

締 切 2025 年 11 月 30 日 (日)

申し込み・問い合わせ先

関西支部ホームページ <http://www.jswe-kansai.com>

日本水環境学会 PFAS 処理技術研究委員会 第 1 回 セミナー「陰イオン交換樹脂を用いた PFAS 処理の理論と実例」

主 催 日本水環境学会 PFAS 処理技術研究委員会

期 日 2025 年 12 月 1 日 (月) 15:00～16:00

場 所 学会会議室 (江東区常盤 2-9-7 グリーンプラザ
深川常盤 201) および Zoom

プログラム

15:00～15:05 開会挨拶 & 講師紹介

15:05～15:25 「陰イオン交換樹脂による PFAS 吸着特性」
(室町ケミカル株式会社 出水丈志様)

15:25～15:45 「PFAS 選択性イオン交換樹脂とその機能」
(オルガノ株式会社 伊藤美和様)

15:45～16:00 質疑応答

16:00 閉会

申込方法 当研究委員会へのご入会が必要です (学会員の方は会員専用ページよりご入会いただけます)。期限までにご入会の方に、参加申込フォームをご案内します。

参加申込締切 11 月 24 日 (月)

参加費 無料

問い合わせ先

PFAS 処理技術研究委員会 事務局

hiroey@se.kanazawa-u.ac.jp (原)

発表を予定している者。なお、発表申込および参加申込などの手続きは、各自で行ってください。

助成内容 助成の対象となる費用は、会議参加登録費、ならびに会議参加のための渡航費および滞在費 (全額または一部) とします。

応募方法 助成を希望される方は、次項に記載の必要書類を電子メールアドレスに添付してご提出ください。

なお、提出後 2 日以内に受領の連絡がない場合は、学会事務局までお問い合わせください。ますようお願いいたします。

提出書類 (書式は自由)

①応募者の氏名、所属、役職、住所、電話番号、メールアドレス、本会での活動内容 (年会、シンポジウム、WET、研究委員会、支部等)

②本助成を必要とする理由

③発表予定の研究内容が判る資料 (日本語可)

④本渡航費用等助成への過去における応募状況

⑤発表採択通知 (未着の場合、通知を受領次第、別途ご提出ください)

⑥経費の概算

提出期限 2026 年 4 月 2 日 (木)

採否通知 選考結果については、2026 年 5 月までに応募者に通知します。

提 出 先 〒135-0006 江東区常盤 2-9-7
グリーンプラザ深川常盤 201 号
(公社) 日本水環境学会 派遣・招聘委員会
E-mail: kokusai@jswe.or.jp (@は半角)

他学会関連行事

第 40 回 ニューメンブレンシンポジウム 2025

主 催 一般社団法人日本膜学会

期 日 2025 年 11 月 17 日 (月) ～19 日 (水)
10:00～17:00

場 所 早稲田大学リサーチイノベーションセンター
(121 号館) 会議室 B1F (東京都新宿区早稲田鶴
巻町 513)

プログラム

Sec.1: 気体分離膜開発の最前線。Sec.2: カーボンニュートラルに向けた膜利用の展望。Sec.3: 多様化する原水に挑む膜分離技術の最前線。Sect.4: NF・RO 膜の新たな潮流。Sec.5: MABR (膜通気式生物膜法) の国内実装に向けて。Sec.6: 膜利用排水処理技術の最前線

詳細は、「詳細 URL」をご参照ください。

申し込み方法 「詳細 URL」よりお申し込みください。

参加申込締切 2025 年 11 月 5 日 (水)

参加費 所属団体、参加セッション数により異なります。

IWA 関連行事

IWA (国際水協会) 世界水会議

World Water Congress & Exhibition 2026 Glasgow での研究発表に対する渡航費用等助成対象者の募集

本会では、京都会議記念基金を活用し、2026 年 10 月に英国のグラスゴーで開催される IWA (International Water Association) 世界水会議での研究発表予定者を対象に、会議に参加するための費用の助成を行います。とくに、地方の試験研究機関に所属する会員や若手研究者など、これまで海外での学会参加が困難であった方々に、是非ともご応募いただき、優れた研究成果を積極的に発表していただきたいと考えております。なお、助成対象者には、会議参加後に参加報告書をご提出いただきます (報告書は学会誌に掲載されます)。

〈募集の手引き〉

応募資格 助成の対象者は、本会の正会員であり、IWA 世界水会議において口頭発表またはポスター

「詳細 URL」で確認してください。

詳細 URL <https://www.amst.gr.jp/seminar/1557/>

問い合わせ先

一般社団法人膜分離技術振興協会

〒103-0004 東京都中央区東日本橋 3-12-11

東日本橋 TS ビル

Fax : 03-6712-0192 E-mail : nmmts@amst.gr.jp

海水資源・環境セミナー 2025

主催 日本海水学会 海水資源・環境研究会

協賛 日本水環境学会 他

期日 2025 年 11 月 20 日 (木) 13:30-17:10

場所 千葉工業大学津田沼キャンパス 7 号館 3 階
732 講義室

プログラム [1] 微細な化学層序から探る南鳥島マンガ
ンノジュールの成長過程 (町田 嗣樹 氏), [2] Solar
Desalination : 太陽光利用による海水淡水化 - 私の研究 -
(仮題) (藤原 正浩 氏), [3] 逆浸透膜を長寿命化する脱
塩性能回復技術 (伊藤 嘉晃 氏), [4] 海藻「カギケノリ」
による温室効果ガス削減とその大量培養技術開発 (久保
田 遼 氏)。それ以外は以下詳細 URL をご参照ください。

申し込み方法 弊会 HP からお申し込みください

参加費 一般 4,000 円, 学生無料 (定員 70 名)

詳細 URL <https://swsj.org/2025/08/19/seminar-on-marine-resources-and-environment-2025/>

問い合わせ先

日本海水学会 海水資源・環境研究会事務局 (邑上)

Tel : 0465-47-3161 E-mail : shigen@swsj.org

お知らせ

2025 年度「名誉会員」の推薦について

名誉会員は、水環境関連分野の学術の発展に功績があつた、あるいは本会に対しとくに功労があつた満 70 歳以上の会員を、総会の承認を得て推戴します。本会名誉会員推薦内規により、会員は名誉会員候補者を推薦できることになっております。

なお、海外在住の外国人会員も名誉会員の対象となっております。詳細につきましては、学会事務局にお問い合わせください。

2025 年度「学会賞」、「学術賞」 の受賞候補者の推薦について (募集)

これらの賞の選考については、それぞれの選考委員会に対し、会員による推薦制度を設けております。下記のとおり会員各位からのご推薦を期待しています。なお、学術賞に関しては、年齢制限はありません。詳細につきましては、学会事務局までお問い合わせください。

〈学会賞〉

本会の発展に貢献あるいは水環境に関わる分野において、とくに優れた功績を認められた会員に贈られます。

1. 被推薦資格：本会の会員にして、受賞年度 (2025 年度) において満 60 歳をこえる者
2. 提出書類：①被推薦者の氏名、住所、所属、略歴等、②推薦理由書 (2,000 字以内)、③参考資料等、④推薦者の氏名、住所、所属

〈学術賞〉

水環境に関わる一連の論文、著作、学術的研究成果がとくに優れた会員に贈られます。

1. 被推薦資格：本会の会員であること。年齢制限はありません。
2. 提出書類：①被推薦者の氏名、住所、所属、略歴等、②対象とする研究成果、③推薦理由書 (2,000 字以内)、④参考資料等 (論文、著作の一覧等)、⑤推薦者の氏名、住所、所属

※それぞれの賞についての提出書類の書式は自由です。

なお、参考資料の論文、著作の一覧は査読つき論文、学会プロシーディングス、解説、著作などを明確に整理し、推薦理由書等の資料は電子媒体での提出をお願いします。

提出期限 2025 年 11 月 28 日 (金)

提出先

(公社) 日本水環境学会「学会賞」、「学術賞」係

E-mail : award@jswe.or.jp (@は半角)

2025 年度「技術賞」および「技術奨励賞」 候補者の推薦について (募集)

本会では、以下に示したような技術賞および技術奨励賞を設け、対象となる個人または団体を毎年表彰しております。受賞者 (または団体) は、本学会誌ならびに学会 HP に受賞者 (または団体) 名とその技術の受賞理由等についての記事が掲載され、その功績が広く周知されます。

つきましては、下記の要領にて、会員からの技術賞もしくは技術奨励賞候補者の推薦をお願い申し上げます。「推薦」は自薦他薦を問いません。選考委員会にて、推薦内容を十分審議の上、技術賞、技術奨励賞いずれかの相応性も含めて選考されます。

●技術賞

水環境に関する調査研究または水環境技術に関して顕著な功績をなした個人または団体に授与されます。選考にあたっては、技術 (調査内容、方法) の新規性や実績 (たとえば処理技術の場合には実機実績等) 等を加味して総合的に判断されます。

●技術奨励賞

水環境に関する調査研究または水環境技術が独創的であり将来を期待される個人または団体に授与されます。選考にあたっては、技術や調査研究の新規性のほか、学会発表や論文等で発表した成果や調査事例、パイロット試験結果等を加味して総合的に判断されます。

被推薦者・推薦者の資格

本会正会員または団体正会員およびこれに所属する個人
提出書類

「技術賞・技術奨励賞提出書類様式」を学会 HP よりダウンロードしてお使いください。また、各書類は pdf ファイル形式で提出先メールアドレスへお送りください。

<https://www.jswe.or.jp/awards/gijutsu/index.html>

- (1) 被推薦者の氏名、住所、所属（団体の場合は名称および代表者名）、電話番号、E-mail、略歴等（連名の場合、被推薦者の役割分担を明記）
- (2) 対象とする技術または調査研究名（40 字以内）
- (3) 推薦理由（①技術内容（調査内容）、②開発背景、③従来技術および優位性、④技術賞では当該技術の実用実績、技術奨励賞では当該技術の実用化への取り組みまたは当該調査研究に関して期待される社会貢献について記載：2,000 字以内）
- (4) 推薦者（氏名、住所、所属、電話番号、E-mail 等）
- (5) 参考資料等（文献、特許、新聞記事等）

提出期限 2025 年 11 月 17 日（月）

提出先

（公社）日本水環境学会「技術賞および技術奨励賞」係
E-mail：award@jswe.or.jp

なお、過去の技術賞および技術奨励賞受賞テーマ一覧および歴代受賞者を下記 URL の学会 HP に掲載しています。

<https://www.jswe.or.jp/awards/gijutsu/prizewinner.html>

「水環境国際活動賞（いであ活動賞）」の募集

本会では、水環境分野での国際交流・国際協力の促進を目的として、本会の活動趣旨に沿っており、かつ優れた国際的な活動として選定されるものを「水環境国際活動賞（いであ活動賞）」として顕彰し、その費用の一部または全額を助成いたします。助成の対象者を下記のとおり募集いたします。奮ってご応募願います。

なお、この助成制度は「いであ株式会社」殿のご出捐（ご寄付）により実施するものです。

〈募集の手引き〉

応募資格 本会の個人正会員

助成対象 本会の活動趣旨に沿った優秀な国際的な活動に対して助成を行う。活動主体は個人、チーム、研究委

員会などの団体のいずれでも構わない。活動例としては、1) 海外での調査・研究活動、2) 海外または国内での、海外の話題を対象としたシンポジウムや出版等の研究情報の普及・交流活動、3) 海外または国内での、国際的なシンポジウム等の研究集会（オンライン含む）の開催、4) その他、本会・学会員の国際化の進展に資すると考えられる活動等。

助成内容（具体的な使途の例）

- ・調査・研究に係る消耗品等の支出
- ・研究集会等の開催費用（別予算との併用可）
- ・国際共同研究の成果をまとめた書籍等の出版にかかる費用（編集作業等の外注費含む、ただし営利目的の出版物は不可）
- ・物品の購入、ストレージ、輸送等にかかる費用
- ・旅費（別予算による出張等に付随して発生する場合を含む）

いずれについても、国際的な研究活動であり、本賞による支援の必要が明らかであること。

助成金額 総額 30 万円

助成期間 受賞から 2 年間以内

助成対象件数 原則として 1 件

応募締切・方法・提出書類等の詳細につきましては、WEB ページでご確認ください。

合否通知 選考結果については、2026 年 2 月までに応募者に通知いたします。

そ の 他 受賞者は 2026 年 3 月の年会会場で表彰します。受賞者には、活動終了後、活動に関する報告書を作成し、学会へ提出していただきます。

JST 第5回 羽ばたく女性研究者賞 （マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）

JST は駐日ポーランド共和国大使館との共催で、国際的に活躍が期待される若手女性研究者を表彰する「第5回 羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）」の公募を開始しました。詳細は下記 URL からご確認ください。

応募期間 2025 年 10 月 1 日（水）～12 月 10 日（水）

日本時間正午まで

詳細情報 <https://www.jst.go.jp/diversity/researcher/mscaward/>

問い合わせ先

国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）

人財部ダイバーシティ推進室

E-mail：diversity@jst.go.jp

本冊子は「特集企画編」です。「原著論文編」は、国立研究開発法人科学技術振興機構「科学技術情報発信・流通システム（J-STAGE）」に掲載しています。<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jswe/-char/ja/>